

山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi
Veterinary Medical Association

第 719 号 令和 3 年 4 月

獣医学過程優等卒業生への表彰状授与

常務理事 福島和彦

令和3年3月23日（火）に予定されていた山口大学共同獣医学部獣医学科4期生（30名）の学位授与式が新型コロナウイルス感染症の影響により規模を縮小して開催され、優等卒業生への日本獣医師会会長表彰と山口県獣医師会会長表彰の授与は、佐藤晃一学部長から手交されました。

受賞された学生から次の様な感想と抱負が県獣医師会に寄せられました。



日本獣医師会会長賞を授与された際の感想と今後の抱負

この度は日本獣医師会会長賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に思います。

山口大学共同獣医学部での6年間は、様々な講義や実習を通して獣医師に必要な知識や技術を学ぶとともに、社会における獣医師の活躍の場の広さを知るかけがえのない時間となりました。同じ夢を持つ仲間と出会い、学外での実習等たくさんの貴重な経験ができ、恵まれた環境で学ばせていただいたことを改めて実感し、大変ありがたく思います。特に今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの大学で対

塚田 日菜氏

面授業が困難な状況となりました。そのような状況でも、私たちが安心して実習等ができるようご尽力いただきました先生方には心より感謝申し上げます。

卒業後は臨床獣医師として、小動物診療に携わることとなりました。獣医師になることは私の幼いころからの夢でした。現場で初めて学ぶことも多く挫けそうになることがあるかもしれませんが、大学で学んだ経験を活かし、信頼される獣医師を目指して努力して参ります。

山口県獣医師会会長賞を授与された際の感想と今後の抱負

この度は名誉ある山口県獣医師会会長賞を授与いただき、大変光栄に思います。共同獣医学部の編入生として5年間、やや年齢の離れた仲間たちに多くの刺激をもらいながら講義や実習に取り組んできました。私にとっては2度目の大学生活でしたが、山口大学共同獣医学部での日々は、本当に学びたいことを学べる喜びを改めて噛みしめる時間となりました。

初めは与えられるままに学んでいた様々な分野の知識が、学年が上がるごと、実習を経るごとに少しずつ繋がってゆき、獣医師となるための生きた知識に変わってゆく経験は素晴らしいものでした。その過程で

武良 千里南氏

いただいた先生方からのお言葉や、学外実習でお世話になった現場の先生方からのご指導はこれからの獣医師人生における財産であると感じています。特に山口県内の各業種でご活躍される獣医師の先生方には多くの場面でご指導いただきました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

卒業を迎え念願の獣医師となりようやくスタートラインに立ちました。今後は臨床医として多くの命に向き合いながら、大学で学んだことを活かし、求められる獣医師となれるよう努めたいと思います。

予告

令和3年度定時総会の開催

- 日時 令和3年6月13日（日）午前10時から
- 場所 防長苑（山口市熊野町4-29）
- 議題 あらかじめ送付する総会議案書による

- その他 定時総会終了後に、令和3年度山口県獣医師連盟通常総会を開催します。

令和2年度第4回理事会開催報告

常務理事 福島和彦

令和3年3月11日（木）に開催を予定しておりました標記理事会については、「決議の省略」という方法で開催しました。第4回理事会開催については、令和3年1月21日（木）の事業推進会議の席で開催について協議を行ったところで、折しも、令和3年第2回支部長会議を书面決議による開催（第718号令和3年3月会報報告）にしており、支部長会議開催の手法決定時期よりも更に一段と新型コロナウイルス感染症が県内で拡大しつつある中での決定でした。

今回の理事会は、公益法人として行政庁に対し年度末までに、次年度の事業計画、収支予算書の提出を始め理事会承認を得なければならない案件も多く、「開催」か「決議の省略」かで、理事・監事に承認を求める方法が大きく変わります。開催すれば、その場で議事案件の説明ができますが、「決議の省略」となると、回答日時の2週間前までに関係資料を送る必要があります。

また、今回の理事会では、前述のように令和3年度予算書の作成が必須であり、そのためには、令和2年度の「仮決算」を行う必要があり、各提出議案についての説明文の作成の必要性があったことから1月21日に最終決定を行いました。

お陰をもちまして、提出議案すべての承認を得ることができました。会員の皆様方には、提出議案と説明概要を添えて報告します。

第1号議案 令和2年度事業の進捗状況の件 （報告事項）

・令和2年度事業（中間経過）について説明しました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、県下でも感染経路不明事例や、クラスターが発生し、**2月24日現在の感染者数1,363名（うち、死亡者35名）の状況**となっており、各種事業、講習会・研修会、会議開催が困難となりました。また、一昨年、岐阜県で発生した豚熱（CSF）は、野生イノシシを始めとする野生獣を介して、依然として国内で発生が認められ、高病原性鳥インフルエンザ感染症（HPAI）も越冬野鳥の南下に伴い、全国で発生が見られ、いまだ嘗てない飼養鶏の殺処分が行われ畜産及び社会経済に大きな被害（**2月15日現在：50事例約975万羽の殺処分**）を与えています。

そうした中、畜産分野及び公衆衛生分野において各種の指導を行う勤務獣医師の処遇改善を（公社）日本獣医師会と共に県知事及び県議会議長等に強く求めると共に、近時は自然災害の常態化と激甚化に対するリスク管理が喫緊の課題となっており、獣医師会と県との災害時協定の必要性和締結を県知事及び県議会議長等にも訴えております。各種会議の開催状況は、冒頭記載しましたように、新型コロナウイルス感染症のためほとんどが書面による決議と

なっております。講習会の開催についても、小動物部会開催の講習会1回のみですが、この講習会については、講師の了解のもと資料、講習会の模様はYouTubeを活用し、会員専用バナーから視聴できるようにしました。

狂犬病予防注射事業については、集合注射頭数の減少がありましたが、個人注射では、現状では昨年同期に比較して増加しています。令和3年度向けの狂犬病予防注射啓発ポスター、チラシの配布は、令和3年1月中下旬には、関係機関に配布が終了しています。おって、「ふれあい山口」や「FM山口」を利用した犬の登録・狂犬病予防注射に係る啓蒙活動を予定しています。

・動物の愛護・保護・救護等支援事業に関しては、今年度は、「動物の愛護及び管理に関する法律」に基づく国の基本指針が改正されたことから県計画の見直しが行われたため、県協議会に参加すると共にパブリックコメントを県獣医師会として提出を行いました。また、災害時の身元の確認にも役立つマイクロチップについては、まだ装着率が低いため、積極的に装着に努めるために啓発する必要があり、開業獣医師会員のうち希望者に10本を上限に無償配布するなど、マイクロチップ装着の啓蒙・推進を図ったところです。

第2号議案 令和3年度事業計画及び事業予算の件 （承認事項）

・事業計画案については、別途、第8号議案で説明を行います。マイクロチップを活用した登録等の収益事業に向けた協議と登録事業等の事業参加に向けた理事会承認を令和3年度内に行うこととしています。学会等については、令和3年度獣医学術中国地区学会及び令和3年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会の開催が、現状予定されています。なお、県学会の開催については、これらの開催状況を勘案し、学会運営委員会で開催日時等を決定することとなり、講習会の開催等については、各部会委員会で開催日時等が決められることとなります。今年度、公衆衛生分野では、動物由来感染症予防対策の一環として、SFTS検査依頼書の集積を開始することとしております。検査機関への依頼書の集積を行うことで、県内の感染状況の把握とともに開業小動物獣医師・スタッフ・飼育者への感染防御の一助とすることとしています。

・令和3年度事業予算については、例年のとおり、令和3年1月末時点の仮決算を基にした令和3年度事業予算であることをお伝えしました。

【経常収益関連】

・受取入会金及び受取特別会費については、令和3年度も例年どおりの入会等を予定しておりこれに基

づき算出を行いました。

・県委託事業の傷病鳥獣保護委託事業については、今年度、大幅な県予算のマイナスシーリングの影響が出ております。

【経常費用関連】

・事業・会議関連は、新型コロナウイルス感染症の動向が不透明な状況ですが通年どおり実施するものとして計上しております。以上が第2号議案の要旨です。

第3号議案 令和3年度会費徴収(案)の件 (承認事項)

・会費徴収については、大きな変更を予定しておらず、現行を維持することとしています。

第4号議案 山口県獣医師会規則・規程等の改正の件 (承認事項)

・令和2年10月29日(木)に開催した第2回理事会で説明を行っており、現在まで、規則、規程等に関する疑義はありませんでした。なお、第2回理事会後に開催された小動物部会・支部長会議において山口県獣医師会狂犬病予防注射実施者指定要綱(改定)に関して、県獣医師会として集合注射時の指定獣医師の指定について従前申し送り事項であった指定までの期間について、細則に記載することを予定しております。

この記載は、あくまでも県獣医師会としての申し送り事項を明文化したものであり、そのため、令和3年度第1回理事会で、上記事項の協議と承認を頂くこととしています。以上が、第4号議案の要旨です。

第5号議案 資金調達及び設備投資に係る見込み (案)の件(承認事項)

・この議案については、資金調達、設備投資の有無にかかわらず、毎年次年度事業計画に伴い議決をお願いしているものです。令和3年度には、資金調達、設備投資はありません。

第6号議案 狂犬病予防事務に係る事故補償対策準備資金の取崩措置の件(承認事項)

・例年、狂犬病予防注射が開始される前に、事故補償対策準備資金の取崩について、承認を頂いています。また、令和2年度は、集合注射予定日が延期になったため、集合注射に係る傷害総合保険を既に支払っています。年度末には、4月以降の集合注射のための傷害総合保険に加入を予定しております。以上が第6号議案の要旨です。

第7号議案 新規加入会員の件(承認事項)

・新規に1名の加入希望がありましたので、承認をお願いしました。

第8号議案 令和4年度開始収益事業の件 (承認事項)

・動物の愛護及び管理に関する法律(令和元年改正)に基づく飼主(所有者)登録(令和4年6月1日施行)の開始に伴う動物の個体識別(所有明示)

措置推進事業への参加に向けた積極的協議及び事業参加誘引があった場合、事業参画することの承認をお願いしています。そのため、令和3年度第3回理事会で収益事業を開始するための承認後に、公益法人としての事業変更承認を県に提出し令和4年の第1回の公益認定等審議会でも事業変更承認を得ることとしています。以上が、第8号議案の要旨です。

第9号議案 令和3年度総会開催の件(承認事項)

・定期総会については、令和3年度第1回理事会で、時期、場所、総会内容について承認を得るところですが、従前、総会を行っておりました3階研修室の老朽化に伴う修繕や新型コロナウイルスの感染症の終息しなかった場合のことを考慮し、先に日程(令和3年6月13日)、開催場所(山口市熊野町 防長苑)の承認をお願いしました。以上が第9号議案の要旨です。

第10号議案 職員の雇用の件(承認事項)

・職員雇用については、昨年3月理事会において事務引き継ぎのため現書記の1年間の再雇用をお願いしたところですが、今回、当該職員から、決算・総会開催のため6月末日までの再度雇用延長の申請がありました。本会としても、本会の事業運営上、必要なことと考えております。また、今後の円滑な事務推進を図るため新規職員雇用の承認をお願いします。本職員は、一昨年9月から臨時職員として雇用しておりましたが、上記の理由により、新規正職員として、次年度からの雇用について、承認をお願いしました。以上が、第10号議案の要旨です。

第11号議案 狂犬病予防注射新規指定獣医師及び指定解除者の件(報告事項)

・各支部から推薦のありました集合注射指定獣医師及び解除者について、支部長会議、小動物部会委員会で審議を行い、それぞれ承認を得ましたので報告しました。なお、平田由美獣医師にあっては、逝去に伴う解除である事をお伝えしております。以上が、第11号議案の要旨です。

提出議案についての説明文の概要です。その他、定款第22条第5項に従い、業務執行理事の職務執行状況報告を行っております。

これらの上程議案について、全理事・監事から承認、異議なしの回答が得られ、令和3年3月15日に無事、行政庁に対し報告を行った事を報告します。

なお、総会資料や総会の場においても、会員の皆様方には、ご説明したいと思っております。

おって、行政庁へは、3月15日に電子申請を行い受理されました。



リレー随筆

「山口市産業交流拠点施設」について

このたび、山口支部の福田犬猫病院の福田先生からリレー随筆のバトンを受け取りました県産業戦略部の吾郷です。

今回は、この7月にグランドオープンを予定している「山口市産業交流拠点施設」について話をさせていただきます。

交流・にぎわい・ビジネス創出をテーマに新山口駅北地区に整備されるこの施設は、県内最大級の収容人数を誇る「多目的ホール」や、企業の創業相談窓口やコワーキング機能を有する産業交流スペース「メグリバ」、産業支援機関を集約した「公的機関オフィススペース」、ジムとクリニックを併設した「メディフィットラボ」などで構成されています。

山口市産業交流拠点施設



駅直結の施設で利便性も高く、一般が利用可能な会議室も完備していますので、獣医学会やセミナーで利用してはいかがでしょうか。

さて、私が所属する県産業戦略部でも、この施設の整備支援プロジェクトを平成29年度に立ち上げ、山口市と連携して山口宇部道路からのアクセス道路の整備や産業支援機関の集積、ヘルスケア関連産業の創出拠点整備などに関わってきました。

私自身もこの1年、そしてこの原稿を書いている現在もオープンに向けた準備に忙殺されていますので、ようやくグランドオープンを迎えることについて大変感慨深いものはあります。

特に「メディフィットラボ(medifitLabo)」については、思い入れが強いことから、もう少し詳しく御紹介させていただければと思います。

文字通り、「medical (医学の) + fitness (健康のた

県庁支部 吾郷 英昭
(産業戦略部産業イノベーション推進室)

メディフィットラボ



めの運動) + Labo (研究所)」の機能を集約した施設であり、県内大手のグループのスポーツジムや温浴施設、山口市内のクリニック、薬局等で構成される地域医療と連携したメディカルフィットネスです。

ジムやクリニックなど、一部は4月からオープンしていますが、6月には新たにヘルスケア関連産業の創出拠点「やまぐちヘルスラボ」を、クリニックや薬局と同じフロアに、県・山口市共同で設置する予定となっています。

この「やまぐちヘルスラボ」ですが、常駐する専任の総括マネージャーが、企業のヘルスケア関連製品・サービスの事業化のコンサルティングを行うほか、企業が開発するヘルスケア関連製品(機能性食品やウェアラブル端末、健康アプリなどをイメージしてもらえればと思います)を県民モニターが利用後、大学、研究機関が分析・検証し、企業にエビデンスを提供するテストフィールドを用意したり、製品の改良にユーザーの生の声を取り入れるワークショップを開催したりと、県民と企業が共創でモノづくりを行う「リビングラボ」の手法を取り入れたヘルスケア関連産業の創出拠点になります。

既にいくつかの企業さんから「やまぐちヘルスラボ」を活用した製品開発について具体的なお話を集めていることから、今後、モニターの募集も開始する予定ですので、御興味のある方は是非参加してみてくださいと思います。

それでは、次号の原稿のバトンは、一音前に県庁で机を並べて一緒に仕事をさせていただいた(笑)、熊毛支部の「ゆうなん動物病院」の友好先生にお願いいたします。

Message for musculus deltoideus

熊毛支部 菅原 淳也

(菅原獣医科医院)

国内で初めての新型コロナウイルス感染症が確認されてからもうすぐ1年半、我々世代にとっては日本で最も神に近いコメディアンである「志村けん」がこの世を去って約1年となります。Stayhomeの折、自宅で「8時だよ全員集合」のDVDを見て狂ったように笑う子供達の姿を見ながら、「志村」が亡くなったあの日を境に世の中全体や自分自身の中でコロナに対する考え方が一変したのをつい先日のように思い出します。一方、想像を絶する激務で対応に当たっていらっしやる医療関係者の皆様、保健所を初めとした行政関係各所の皆様には心より感謝申し上げます。

今年に入って、対策において大きな前進となるワクチン開発・量産が動き出し、医療従事者やリスクの高い属性の方達に対する接種が始まりました。正直、この開発速度には驚くしかありません。調べてみると、あくまでも「急造品」ではなく、各分野の数十年にわたる地道な研究成果が実を結んで開発に繋がったとのことで感動すら覚えます(莫大な予算投下によって相当に加速したようですが・・・)。

今回のワクチンは「mRNAワクチン」として分類されるそうです。不活化でもなく、生ワクチンでもない、新しい機序で働くワクチンです。その名の通り、コロナウイルスのスパイクタンパクをコードしているmRNAをヒトの細胞内に取り込ませる仕組みだとか。RNAと聞いてまず思ったのが、確かRNase (RNAを分解する様々な酵素) って身の回りのあらゆるところにありふれていて、RNAというものはとても分解

されやすく取扱が難しいものだ、と約20年前習った気がするなという点でした。運搬、保存時の温度が-80℃とか-20℃とか極低温であることが必要なのは分かる気がします。また、この問題を避けるために、カプセル状の脂質二重膜内にmRNAを封入することで保護しているとか(Lipofection法)。さらにこの脂質カプセルが接種後直接筋肉細胞の細胞膜から取り込まれ、mRNAが細胞質内に放出されて、直ちにタンパク合成→プロセッシング→MHCクラスIによって抗原として提示されるそうです。スゴイ仕組みです。素人的に考えると、予防にも治療にも応用して何でもできそうな気がしてきます。ウイルスの変異に対しても柔軟に対応して作り替えることができるそうです。

ワクチンに関して、日本国内のメディアでは良くあるパターンですが、筋注の痛みや、接種後の副作用ばかりが強調されて、「ワクチン接種は危険！」な世論を誘導するような報道をよく目にしますが、本当にやめて頂きたいですね。ゼロリスクはありません。状況です。まずは客観的な事実と、副反応が起こったときの対応手順・補償などを正確に伝えてほしいものです。なにせよ、人種特有の予期せぬ副作用など発生せず、混乱無く、リスクに応じて順序よく接種が進んで行くことを願うばかりです。

※参考文献：日本RNA学会Webサイト
<https://www.rnaj.org/component/k2/item/855-iizasa-2>

COVID-19 mRNAワクチンが働くしくみ

1 COVID-19

スパイクタンパク質
遺伝子材料

COVID-19の表面にはスパイクタンパク質があります。このスパイクタンパク質に対する抗体を生成できれば、免疫を誘発させることができます。しかし、そのために、ウイルス全体を使用したくはありません。

2 COVID-19

スパイクタンパク質形成指示を出す遺伝子材料の部分

RNAと呼ばれるウイルスの遺伝子材料のうち、小さいタンパク質のみがスパイクタンパク質の形成に関する指示を出します。このような指示がメッセンジャーRNA (mRNA) の鎖に転写されます。

3 ワクチン

保護的脂質
mRNA (スパイクタンパク質形成指示体)

ワクチンの場合、この遺伝子材料 (mRNA) を保護的脂質シェルに入れます。mRNAはひじょうに壊れやすいため保護する必要があります。脂質シェルは、細胞の周囲構造に似ています。

4 ヒト細胞

リボソーム mRNA ワクチン

ワクチンを接種すると、ワクチン中の細胞はヒト細胞と融合し、スパイクタンパク質形成指示体 (mRNA) を放出します。このmRNAは、細胞中でタンパク質が作られる場所 (リボソーム) に進みます。

5 ヒト細胞

スパイクタンパク質
アミノ酸の鎖

細胞中のリボソームはmRNAのコードを読んで、それに従ってアミノ酸の鎖を編み、タンパク質を作ります。このタンパク質が細胞から漏出し、スパイクを形成します。

6 ヒト細胞

mRNAは体内で分解され、ワクチン接種を受けた人の遺伝子には組み込まれません。

7 抗体

免疫系は、スパイクタンパク質を認識すると、それに反応して抗体を生成します。この反応により副作用が生じることもあります。

8 抗体

(抗体: 感染症を撃退し免疫をもたらす助けとなるタンパク質)

抗体はその後のウイルス曝露に備えて反応を「記憶」します。この記憶があるため、COVID-19に感染すると免疫が働きます。

9

ワクチン接種の後に、発熱、悪寒、疲労、頭痛、関節の痛み/腫れなどの副作用が生じることがあります。このワクチンには強い効果がありますが、それは体にCOVID-19に対する防御の準備をさせるように働くということを意味します。

www.snohd.org/covidvaccine

Japanese



第62回山口県家畜保健衛生業績発表会を開催

県庁支部 吉本 侑里

(農林水産部畜産振興課)

令和3年3月15日(月)、セントコア山口において、第62回山口県家畜保健衛生業績発表会を開催しました。

本発表会は、家畜保健衛生所(以下、家保)等の職員が日頃の業務の成果を発表する場であり、中国四国ブロック家畜保健衛生業績発表会で発表する優秀な3演題を選出する場でもあります。

例年、畜産関係者の皆様に多数ご参加いただいておりますが、今回は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、参集範囲を山口県職員に限定し、さらに会場には、助言者、家保所長及び発表者のみが出席し、その他の職員はリモートにより参加しました。

中国四国ブロックへは、全11演題の中から次の3演題が選出されました。

- 1 大規模肉用牛農場で発生した牛呼吸器病症候群とその対策(第2報)(中部家保 大山ゆき)
- 2 肉用牛一貫経営農場において発生した腸管外病原性大腸菌感染症(中部家保 佐野裕規)
- 3 多様化する家きん飼養者に対する飼養衛生管理指導と防疫体制強化への取組み(西部家保 鳴重寿人)

なお、各演題の内容につきましては、農林水産省のホームページに掲載予定の抄録を掲載させていただきますので、ぜひご覧ください。

最後になりましたが、助言者の皆様には、それぞれの専門的なお立場から、適切かつ貴重な御助言をいただきました。この場をお借りし、改めてお礼申し上げます。

本発表会の成果を今後の業務に活用し、本県畜産の発展に努めていきたいと考えております。

1 大規模肉用牛農場で発生した牛呼吸器病症候群とその対策(第2報)：山口県中部家保 大山ゆき、亀山光博

牛呼吸器病症候群(BRDC)での死廃が多発した肉用牛約500頭飼養の農場において、昨年度、発生予防の取組を報告。2019年4月から、農場、診療獣医師及び製薬会社等を参集した検討会を開催。農場の問題点、必要な対策・検査を検討し、結果を共有・協議。農場において、踏込消毒方法の改善、煙霧消毒の実施回数の増加、個体記録簿の作成、サーモグラフィーによる健康観察、従業員ミーティングによる情報共有の徹底を実施。また、昨年度の検証結果から新たにワクチンプログラムを作成。抗体検査を実施して検証。細菌・ウイルスに対する免疫の獲得を確認。取組の結果、2018年度に比べ、呼吸器病に係る初診頭数及び年間診療費が大幅に減少。免疫応答が十分でない個体に関しては、導入日齢のばらつ

きによる移行抗体の影響と推測。今後の対策として、導入個体の日齢に応じたワクチン接種を検討。今後もBRDC抑制のため、農場の現状に応じた対策を指導予定。

2 肉用牛一貫経営農場において発生した腸管外病原性大腸菌感染症：山口県中部家保 佐野裕規、入部忠

県内の同一農場間を移動させた繁殖雌牛が娩出した子牛2頭が腸管外病原性大腸菌(ExPEC)感染症を発症。病理組織学的検査、分離大腸菌の血清型別試験、ExPEC及び下痢病原性大腸菌の関連因子に特異的なPCRを実施。事例1：化膿性髄膜炎、腎臓の線維素血栓、胸腺の軽度萎縮、全身の血管内に短桿菌の集塊。血清型は不明、細胞毒素因子(*cnf2*、*cdtIII*)、鉄取込能因子(*iucD*、*iutA*、*irp1*、*irp2*)陽性。事例2：全身臓器血管内に菌塊、胸腺の軽度萎縮。脳、脾臓、心臓、骨格筋の血清型はO143。鉄取込能因子(*iucD*、*iutA*、*irp1*、*irp2*)、血清抵抗性因子(*iss*)、病原因子伝達能因子(*cvi/cva*)陽性。ExPEC感染症は10日齢以下の発症が多く、若齢期が好発と推察。全身血管内の菌塊以外に共通所見が少なく、特定の病態を示さないと推察。血清型の偏りがなかったことから、血清型は病原性決定因子ではないと推察。*iutA*は多数検出されたことから、病原性に関与していると推察。

3 多様化する家きん飼養者に対する飼養衛生管理指導と防疫体制強化への取組み：山口県西部家保 鳴重寿人、中谷英嗣

管内は県内屈指の養鶏地帯で、大小様々な規模の家きん飼養者が混在。全国的にHPAIが多発する中、飼養衛生管理指導と防疫体制を強化。飼養衛生管理指導では自己点検7項目(基準)のポイントを視覚化した資料説明と個別指導により12月には全養鶏農場の基準100%遵守を達成。防疫体制強化では、新設鶏舎の現地調査や仮設テント設置場所の精査を行い、初動防疫作業内容を確認。新型コロナウイルス感染防止対策に配慮した研修会や防疫演習を実施。農場関係者の防疫意識が大幅に向上。HPAI発生予防には、農場の緊急消毒や殺鼠剤の設置を実施。小規模家きん飼養者にも緊急消毒を実施。養鶏農協に対し、冬季に毎月1回の全農場巡回指導、周辺ため池・河川の調査、疫学関連農場の確認を行い注意喚起。リモート方式による農場へのリアルタイムな情報発信や小規模家きん飼養者への電子メールによる情報発信を初実施。休日など業務時間外でも自宅から迅速な発信が可能。以上から、防疫体制の強化が図られ、HPAI発生防止につながった。

会員の異動

春の人事異動により次のとおり会員が異動されました。

1. 山口県職員

退職者（令和3年3月31日付け）

- 徳重 克彦（環境生活部 次長）
- 白銀 政利（環境生活部 審議監兼生活衛生課長）
- 荒川 秀彦（動物愛護センター 所長）
- 石井 俊昭（農林総合技術センター 畜産技術部 部長）
- 岡藤 武人（下関農林事務所畜産部 保健防疫課 主任）

	〈新所属〉	〈氏名〉	〈役職〉	〈旧所属〉
環境生活部	環境政策課	西 藤 裕一郎	課長	山口健康福祉センター保健環境部 副部長
	廃棄物・リサイクル対策課	坂 本 聡	ゼロエミッション推進班 主幹	宇部健康福祉センター保健環境部 生活環境課 課長
	生活衛生課	三 保 裕 和	食の安心・安全推進班 主査	環境政策課 大気環境班 主査

	〈新所属〉	〈氏名〉	〈役職〉	〈旧所属〉
健康福祉部	岩国健康福祉センター	古 川 勝 也	保健環境部生活環境課 食品衛生班 主査	動物愛護センター指導課 主査
	周南健康福祉センター	吉 母 修 栄	保健環境部 副部長	長門健康福祉センター保健環境部 副部長
		柳 谷 泰 夫	保健環境部生活環境課 食品衛生班 主査	周南健康福祉センター保健環境部 生活環境課食品衛生班 主任
	山口健康福祉センター	渡 邊 菜 摘	保健環境部生活環境課 食品衛生班 主任	山口健康福祉センター保健環境部 食品衛生課 主任
		末 永 昌 美	保健環境部 食品衛生課 主査	岩国健康福祉センター保健環境部 生活環境課食品衛生班 主任
	宇部健康福祉センター	木 村 雅 美	保健環境部生活環境課 課長	宇部健康福祉センター保健環境部 生活環境課食品衛生班 主査
		川 崎 由紀子	保健環境部生活環境課 食品衛生班 主査	生活衛生課 食の安心・安全推進班 主査
	動物愛護センター	河 村 章	所長	周南健康福祉センター保健環境部 副部長
		大久保 淳	指導課 主任	萩健康福祉センター保健環境部 生活環境課食品衛生班 主任
	環境保健センター	亀 山 光 博	保健科学部 専門研究員	中部家畜保健衛生所 保健防疫課 主任

	〈新所属〉	〈氏名〉	〈役職〉	〈旧所属〉
農林水産部	農林水産部畜産振興課	小 川 賀 雄	課長	農林水産部畜産振興課 調整監 (衛生・飼料班長)
		前 田 翔 一	衛生・飼料班 衛生グループ 主任技師	長門農林水産事務所 畜産部 畜産振興課 主任技師 兼下関農林事務所勤務
	柳井農林水産事務所	小 南 直 司	畜産部 畜産振興課 課長 兼岩国農林水産事務所畜産部畜産振興課課長 兼周南農林水産事務所畜産部 畜産振興課課長	萩農林水産事務所 畜産部 保健防疫課 主査
		古 澤 剛	畜産部 保健防疫課 課長	柳井農林水産事務所 畜産部 畜産振興課 主査 兼岩国農林水産事務所勤務兼周南農林水産事務所勤務

	〈新所属〉	〈氏名〉	〈役職〉	〈旧所属〉
農 林 水 産 部	柳井農林水産事務所	柿原 新	畜産部 保健防疫課 主査	山口農林水産事務所 畜産部 病性鑑定室 主任
	山口農林水産事務所	國吉 佐知子	畜産部 部長 兼病性鑑 定室室長兼美祢農林水産 事務所畜産部部長	萩農林水産事務所 畜産部 部長
		大石 大樹	畜産部 病性鑑定室 主査	柳井農林水産事務所 畜産部 保健防疫課 課長
		茨木 義弘	畜産部 病性鑑定室 主任	下関農林水産事務所 畜産部 保健防疫課 主任
		大岩本 拓也	畜産部 病性鑑定室 技師	柳井農林水産事務所 畜産部 保健防疫課 技師
		吉本 侑里	畜産部 保健防疫課 技師	農林水産部畜産振興課 衛生・飼料班 衛生グループ 技師
	下関農林事務所	直井 秀明	畜産部 保健防疫課 主任	岩国健康福祉センター 保健環境部 食肉検査課 主任
		大島 毅	畜産部 保健防疫課 主任	農林総合技術センター 農業担い手支 援部 畜産課 主任
	長門農林水産事務所	佐野 裕規	畜産部 畜産振興課 主任技師 兼下関農林事 務所勤務	山口農林水産事務所 畜産部 病性鑑定室 主任技師
	萩農林水産事務所	松本 容二	畜産部 部長	農林総合技術センター 畜産技術部 家畜改良研究室 室長
	農林総合技術センター	大村 康一郎	畜産技術部 部長 兼家畜改良研究室長	山口農林水産事務所 畜産部 部長 兼病性鑑定室長兼美祢農林水産事務所 畜産部長
		大谷 研文	畜産技術部 専門研究員	山口農林水産事務所 畜産部 病性鑑定室 主査

お願い

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)検査成績の集積について

常務理事 福島 和彦

令和2年度第2回小動物部会委員会、同年度第2回支部長会議及び同年度本会第4回理事会において令和3年度事業に関する協議を行ったところですが、次年度以降の重点取組事業としてSFTS対策を実施することとなりました。これは、未だに県内における本病の発生状況等が不明瞭な点があり、臨床獣医師、スタッフを始め飼主への感染の危険性を孕んでいる状況のためです。

については、SFTS感染実態を明らかにするため飼養犬・猫のSFTS検査の依頼を検査機関に行った場合、依頼書を本会へ提供（FAX、メール）頂きますようお願いいたします。なお、検査依頼については、検査結果情報が得られやすい山口大学及び山口県環境保健センターに依頼されますようお願いいたします。

1 集積開始日時：令和3年4月1日（木）から

2 検査依頼集積の効果

- ・検査依頼時の臨床症状の共有化
- ・検査結果の情報の共有化（会員専用バナーを活用します。）
- ・県内における陽性例発生状況（分布）の把握

以上を会員の小動物開業獣医師が共有することで、感染疑い事例への対処、自分自身、スタッフの感染防護、飼主への啓蒙・啓発及び予防指導、さらには（一社）山口県医師会への飼養犬・猫におけるSFTS発生状況提供が可能となることが考えられます。

3 検査依頼方法

- ・山口大学、環境保健センター共に会員専用バナーに依頼方法を掲載しております。依頼に当たっては、事前に検体の受渡方法等について担当者と相談してください。

【山口大学】2020年4月3日に会員情報として掲載しています。

【環境保健センター】2020年7月6日に会員情報として掲載しております。掲載しております環境保健センターの案内文には、調査期間が2019年4月～2020年12月と記載されていますが、令和3年度も継続実施の予定となっております。なお、両機関への依頼書のワード版が必要な場合は、本会へご連絡下さい。メールにて送信します。

訃報

越智 茂樹先生のご逝去を悼む



去る12月8日、越智茂樹先生がご病気のため逝去されました。享年74。ご葬儀は12月10日、ご本人のご希望であったとのことで家族葬にて執り行われました。

先生は日本大学をご卒業の後、山口県の職員として県内の保健所や健康福祉センター（環境保健所）に勤務されていました。ご退職後は、趣味であられる絵画にいそしまれ個展を開かれるほ

防府支部 上田 晋平

(みどりペットクリニック)

どであったとのこと。また、奥様とお出かけになられ、道の駅などの散策を楽しんでおられました。

昨年の春頃より腰を悪くされ秋頃からさらに状況が悪化し急逝されたとのことで、ご家族の皆様はいまだに信じられないとの事でした。

ご夫婦として、これからいろいろと楽しんでいこうとされていた矢先での唐突なお別れに悔やまれるばかりです。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

令和2年度監査（予定）

- 1 日時 令和3年5月18日（火） 14：00～
- 2 場所 山口県獣医師会館
- 3 監査事項
 - (1) 令和2年度事業について
 - (2) 令和2年度収支決算について

令和3年度第1回理事会（予定）

- 1 日時 令和3年5月20日（木）13：30～
- 2 場所 山口県山口農林事務所畜産部
（山口県中部家畜保健衛生所）
山口市嘉川671-5（TEL：083-989-2517）
- 3 議題
 - (1) 令和3年度定時総会上程議案について
 - (2) 新入会員について
 - (3) 令和3年度会長表彰について
 - (4) その他



お願い

会員の異動報告について

春の人事異動及び異動に伴う会員名簿の記載事項等変更が生じた場合には、4月16日（金）までに会員異動通知票により所属支部事務局まで、お忘れなく報告されますようお願いいたします。

事務局だより

- | | | | |
|-------|---|-----------|--|
| 3月4日 | ・令和2年度家畜化製処理円滑化協議会担当者会議
山口市（山口県JAビル） | 3月17日 | ・令和2年度家畜生産農場衛生対策事業推進会議
山口市（山口県JAビル） |
| 3月10日 | ・越智先生弔問
防府市 | 3月23日 | ・会報編集委員会
山口市（県獣会館） |
| 3月11日 | ・かぎしっぽの会要望聴取
山口市（県獣会館） | 3月26日 | ・日本獣医師会部会委員会
（Web会議） |
| 3月11日 | ・令和2年度第2回山口県動物由来感染症情報関連体制整備検討会
山口市（山口県庁） | 3月11日、25日 | ・事業推進会議 |
| 3月15日 | ・第62回山口県家畜保健衛生業績発表会
山口市（セントコア山口） | | |

次回編集委員会 4月23日（金）13：30～

山口県獣医師会会報 第719号 令和3年4月10日（毎月1回発行）

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1080-3)

電話 (083) 972-1174 FAX (083) 972-1554

e-mail:yama-vet@abeam.ocn.ne.jp

http://www.yamaguchi-vet.or.jp

編集責任者 上田 晋平

発行責任者 田中 尚秋

印刷 コロニー印刷